

比べるのは、過去の自分と今の自分

2024・9・20 重枝 一郎

「土曜授業をなくす」ことについて、私の考えを「センスオブミッション」で語ろうと思っている。およそ以下の内容を生徒・保護者に向けて書く。

9月18日の朝の礼拝で、高校3年生の河村さんの話をおぼえていますか。河村さんの成長過程における「たし算」を学ぶことができたと思います。後輩たちは、ぜひこの話を心にとめてもらいたいと思いました。今回のタイトルである「比べるのは、過去の自分と今の自分」、つまり、他者とではないということも、河村さんの話の中で語られていたと思います。

中高生にとって、先生たちとの出会いは大きな意味をもちます。生徒がよい出会いをもつためには、先生たちが、生徒のコミュニケーションを楽しむゆとりが大切になります。ゆとりには、時間のゆとりもあれば、気持ちのゆとりもあります。先生たちが、仕事や生活を楽しむゆとりをもっていれば、それは生徒に伝わります。ゆとりをもった先生には、生徒も近づきやすいのです。

しかし、実際の学校現場は、非常に多忙で、先生たちはゆとりを失っています。これは、生徒も同じかもしれません。ただ、以前、井上先生が、朝の礼拝で話したように、「本校は余白がある学校」というのは、私も同感です。でも、それでもゆとりがないという人がいると思います。進路指導、生徒指導、部活などが圧迫感を生んでいるのかもしれませんが、ただ、“成長のたし算”は、全教育活動を通して行われます。一つも無駄な“たし算”はありません。だから、先生たちがゆとりをもつためには、企業同様、何らかの仕組みを工夫することが必要だと思います。

ある企業では、「リセットタイム」という時間を設けています。週の一定の時間帯には会議を入れず、社員はたまった仕事を片付けたり、自分の最近の仕事を振り返ったり、今後のプランを考えたりするそうです。自分をリセットする余白時間をつくることで、仕事の波にのまれないようにするといえます。

生徒たちにも、もちろんゆとりは大切です。そうでないと、最上位の目標である「自律的学習者」にはつながらないと思います。生徒自身が、自分で決めたり、自らチャレンジしたりしなければ、主体性は育ちません。自分の存在価値観をもつ「大切なひとり」にはなれません。

ゆとり生む大切なマインドセットがあります。それは、お互いを尊重する柔軟性です。硬直した人間関係だと、そもそもリセットの必要性すら気付かなくなります。自分を取り戻し、自分が何をしたかったのかを再認識するためのゆとりをつくることは、一人一人の能力開発につながります。

学校は、ヒト・コト・モノにつながる場所です。生徒と先生、生徒同士、先生同士のつながり、学問とのつながり、新しい気付きとのつながり、スポーツや文化とのつながりの場です。これが「成長はたし算」になります。

生徒が卒業後に入っていく社会は、以前よりも分断や孤立化が進んでいるかもしれません。相互に理解し合うことが一段と難しくなっているかもしれません。でも、放っておくと、分断や孤立化は進みやすくなります。だから、誰かに働きかけ、誰かを理解しようとすること、自分を理解してもらおうとすることの重要度は増していきます。

だから、何とか時間や気持ちのゆとりが欲しいのです。現在のような大きな転換期には、目指すべき人のモデルは存在しにくいと言われます。他者と比べることも大きな意味をもたないと言われます。**比べるのは、過去の自分と現在の自分なのです。**私たちは、そんな世の中を生きているのです。

このような考えのもと、赴任当初から（4年前）、学校長として、「土曜授業をなくす」ことを進めたいと思っています。実現できるよう、生徒、保護者のみなさんにもご理解してほしいと思っています。

このような内容でまずは、それこそマインドセットしてもらおうと思う。